

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋岩塚物流センター新築工事	階数	地上4F
建設地	愛知県名古屋市	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	1,500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,650 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2023年7月 竣工	評価の実施日	2023年6月30日
敷地面積	157,042 m ²	作成者	清水建設㈱名古屋支店 内菅井敦史
建築面積	91,326 m ²	確認日	2023年6月30日
延床面積	354,172 m ²	確認者	清水建設㈱名古屋支店 内菅井敦史



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 3.6 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆ 30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

① 参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 73%

③ 上記+②以外の: 73%

④ 上記+: 73%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR のスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>「地域に根差した新しいLOGIPOT」</p> <p>EC (ネット通販) 市場への参入業者が年々増加している中、都心住宅街の敷地にラストワンマイルの物流サービスの工場に貢献する施設が必要であり、それが地業丈を高めることにも繋がると考えられます。</p> <p>利用者の利便性向上はもちろんのこと「近隣住民や環境に優しい」新しい施設づくりにSDGsの達成と共に取り組みます。</p>		<p>その他</p> <p>-</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>評価対象外</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。電気設備については非常用発電機を採用、情報通信設備については通信設備の多様化、また、補修必要間隔の長い仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。市民・ワーカー等、多様な活動を受け入れるオープンスペース(バス停広場)を設置し、地域の活動に貢献している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。クールチューブ・ピットを採用するなど、エネルギー面にも配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>省水型機器を用いるなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。また、OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率を73%とするなど、地球温暖化への配慮。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、管理用車両・荷捌き車両の駐車施設を確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される